

四国における『道の駅』の利用実態と施設評価に関する分析

徳島大学大学院工学研究科 正会員 近藤 光男，正会員 廣瀬 義伸
 復建調査設計株式会社 正会員 ○上田 誠，正会員 綾 貴穂

1. はじめに

「休憩」、「情報発信」、「地域連携」の3つの機能を併せ持つ『道の駅』が誕生しておよそ10年を迎えるが、平成15年4月現在四国で66駅（全国で701駅）とその数は着実に増加してきている。最近では、トイレのメンテナンス低下や駅相互間の利用格差の広がりなどの問題が顕在化しつつある一方で、特産物のみならず日常用品まで扱う駅や温泉、宿泊等の施設を完備した駅が増えつつあるなど、『道の駅』の施設や使われ方が多様化してきている。

そこで本研究では、『道の駅』がどのように利用され、利用者からどのように評価されているかを明確にするため、四国内直轄国道沿線の主要な『道の駅』を対象として、駅利用者へのアンケート調査を実施し、利用実態と施設評価に関する分析を行った。

2. 利用実態調査の概要

調査を実施した『道の駅』は下表に示す17箇所である。アンケート調査は駐車場等でのヒアリング形式により行い、607の有効回答数を得た。

表－1 アンケート実施箇所

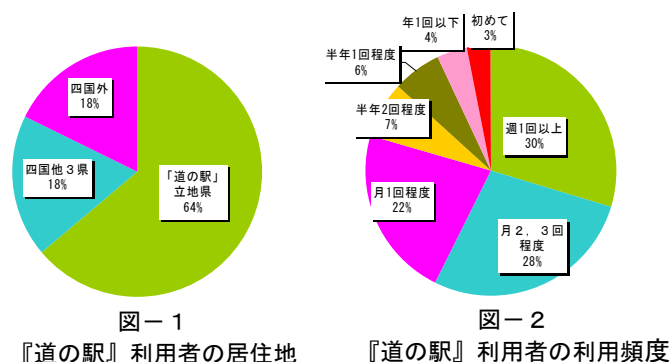
徳島県	香川県	愛媛県	高知県
貞光ゆうゆう館(67)	津田の松原(41)	みしょうMTC(13)	大杉(19)
穴喰温泉(31)	空の夢もみの木パーク(21)	今治湯ノ浦温泉(44)	南国 風良里(27)
公方の郷なかかわ(39)	滝宮(33)	みかわ(25)	キラメッセ室戸(35)
	とよはま(39)	小松オアシス(28)	大山(49)
			かわうその里すさき(41)
			あぐり窪川(55)

注) 平成14年9～11月実施。()はサンプル数。網掛けは休日調査。

3. 利用実態に関する分析

3. 1 利用者の居住地と利用頻度

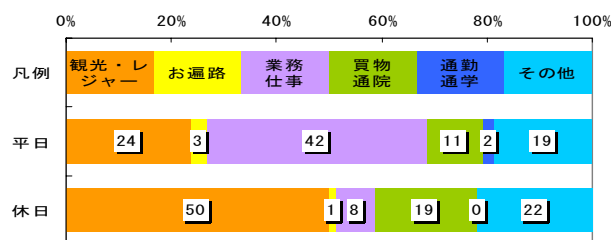
利用者の約6割は県内客であり、他の駅も含めた利用頻度をみると、週1回以上の3割を含む月2～3回以上の利用者は過半数を占めている。このことから、地元住民の他頻度利用傾向が強いといえ、駅そのものが、地元生活を支える施設として定着しつつあることが推察される。(図－1，2参照)



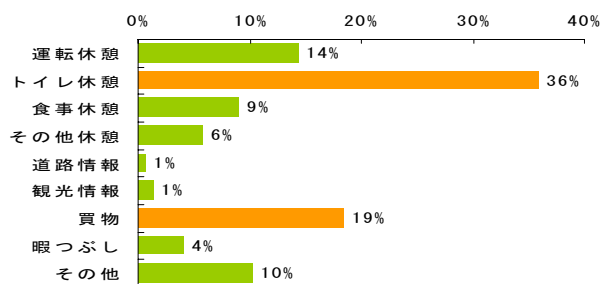
3. 2 利用者の旅行目的と立ち寄り理由

駅利用者の旅行目的をみると、平日は「業務目的」が4割、休日は「観光・レジャー目的」が5割を占め最も多い。(図－3参照)

また、駅への立ち寄り理由については、「トイレ休憩」が約4割と最も多く、食事等他の休憩を含めると65%にも及んでいることから、「休憩」という駅本来の基本的機能に関していえば充分果たされているといえる。一方、「買物」も約2割と多いことから、地元住民を視野に入れた特産物や日常用品を取り扱う駅の増加を反映した結果であるといえ、日常生活面での便利さを求めて立ち寄る傾向が強まっていることが推察される。(図－4参照)



図－3 『道の駅』利用者の旅行目的



図－4 『道の駅』利用者の立ち寄り理由

キーワード 道の駅、意識調査、満足度評価

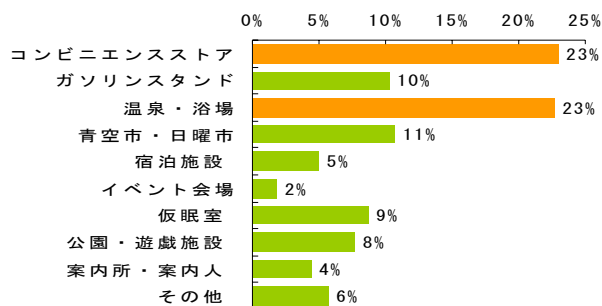
連絡先 〒760-0020 高松市錦町1-4-40 復建調査設計株式会社 高松支社

Tel :087-826-1911 Fax:087-826-1912 e-mail:ueda@fukken.co.jp

4. 利用者のニーズと評価に関する分析

4. 1 利用者から求められる新たな機能

このアンケート調査では、今後『道の駅』に付加して欲しい施設についても聞いており、その項目について集計を行った。（図－5参照）その結果、利用者が駅に対して最も要望している施設は「コンビニエンスストア」と「温泉・浴場」であり、「青空市・日曜日」「ガソリンスタンド」「仮眠室」などへの要望も比較的多いことがわかった。このことから、日常用品等購入機会の年中無休化・24時間化などを実現するための「日常生活機能」に対するニーズが強まってきていること。更に、トイレ・食事等生理的欲求を満たすための単なる休憩は、3.2で述べたように充分満たされていると考えられることから、温泉等により心身ともに休息しようという、より高次の休憩機能すなわち「リラクゼーション機能」を付加することへのニーズも強まってきていることが判明した。このことから、今後着目すべき新たな機能としては、「日常生活機能」と「リラクゼーション機能」であるといえる。

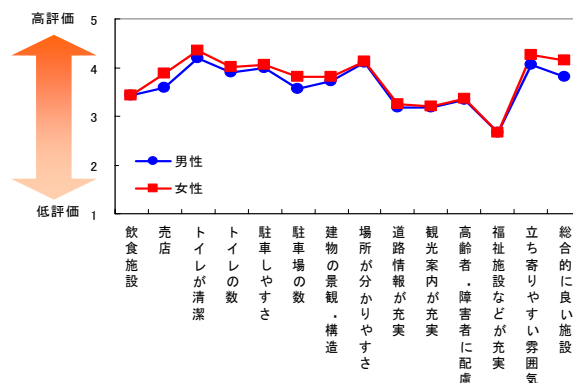


図－5 今後『道の駅』に欲しい施設

4. 2 施設に対する評価

図－6は、施設評価項目毎に17駅の評価（カテゴリー番号）の平均値を男女別に示したものである。これによると、「トイレが清潔」「場所のわかりやすさ」等の項目に対して比較的良好な評価が得られており、「休憩」という基本的機能は充分発揮されているといえる。一方、「道路情報が充実」「観光案内が充実」に対する評価が高くないことから、基本機能の一つである「情報発信機能」が充分発揮されていないことが推察される。また、「福祉施設」に対する評価が最も低いのは、駅内に育児施設等が充分には整備されていない現状が評価されているといえる。「総合的に良い施設」に関する評価に男女間の差が比較的小さいため、数量化理論第Ⅱ類を用いて、各施設評価の総合評価に対する影響度の分析を行い、

男女比較してみた。（表－2参照）この結果、男性は、トイレが清潔かどうか、女性は高齢者・障害者に配慮されているかどうか或いは育児施設等福祉施設が充実しているかどうかという意識が、駅を総合評価する際に強い影響を及ぼしていることがわかった。したがって、冒頭でも述べたように、トイレのメンテナンスが充分であるかどうかは駅の総合評価につながる重要な要素であることが裏付けられ、また、高齢化・福祉社会に即応した施設整備がなされているかどうかも同様に重要な要素であるといえる。



図－6 『道の駅』の施設に対する評価

表－2 総合評価に対する各施設評価の影響度

外的基準	総合評価 [総合的に良いと思う・思わない]		
ケース (サンプル区分)	全体	男性	女性
サンプル数	355	255	100
相関比	0.378	0.411	0.394
飲食施設の使いやすさ	0.111 (8)	0.086 (10)	0.294 (3)
売店の使いやすさ	0.266 (1)	0.169 (6)	0.088 (6)
トイレが清潔	0.127 (6)	0.224 (1)	0.116 (12)
トイレの数	0.075 (11)	0.038 (12)	0.226 (5)
駐車しやすい	0.162 (3)	0.197 (2)	0.080 (2)
駐車場の数	0.137 (5)	0.192 (3)	0.224 (6)
建物の景観・構造	0.178 (2)	0.177 (4)	0.186 (10)
場所のわかりやすさ	0.098 (10)	0.127 (7)	0.285 (4)
道路情報が充実	0.105 (9)	0.100 (9)	0.207 (9)
観光案内が充実	0.114 (7)	0.101 (8)	0.135 (11)
高齢者・障害者に配慮	0.145 (4)	0.174 (5)	0.442 (1)
福祉施設などが充実	0.063 (12)	0.054 (11)	0.310 (2)

注）表中の数値は偏相関係数（数量化理論Ⅱ類による）

5. おわりに

今後は、駅各施設の整備状況と利用者意識との関連を分析し、『道の駅』における施設整備のあり方について検討を進めていく予定である。

【参考文献】

- 建設省道路局：道の駅の本 個性豊かにぎわいの場づくり、ぎょうせい、1993.
- 直原史明：地域に密着した機能とサービス「道の駅」の現状について、道路交通経済 2001-7、pp.13-24、2001.
- 北村、為国、中川：「道の駅」とその周辺施設との関連についての一考察－栃木県を対象として－、土木計画学研究・講演集 No.23(1)、pp.619-622、土木学会、2000.
- 国土交通省四国地方整備局ホームページ：
<http://www.skr.mlit.go.jp/road/rstation/eki.html>
- 国土交通省四国地方整備局：四国地区「道の駅」データベース、2000.
- 飯田克弘、加藤健太郎、森康男：道路利用者の休憩行動およびニーズの実態把握と道路休憩施設整備方針の検討、土木計画学研究・講演集 21(1)、土木学会、pp.137-140、1998.
- 国土交通省道路局国道課：道の駅ハンドブック（西日本）、ぎょうせい、2002.
- 財団法人道路保全技術センター：道の駅旅案内全国地図、道路整備促進期成同盟会全国協議会、2001.